

平成27年度 かながわの遺跡展 かながわの遺跡巡回展

縄文の海 縄文の森



神奈川県教育委員会

神奈川県立歴史博物館

海老名市教育委員会

ごあいさつ

日本のような酸性土壌の土地では、土に埋もれた有機質のものは分解されて(腐ってしまい)形をとどめることがありません。そのため、台地上の縄文時代の遺跡から発見されるものといえば、土器や石器などの腐らないものが大半を占めています。

ところが、貝塚では動物の骨を始め、これらの骨や角で作った道具(骨角器)などが、貝殻のカルシウムによって分解されずに残っています。また、水辺の遺跡でも、木の実のほか、木や漆を使った道具などが、水浸けの状態で見つかることがあります。

このように偶然に残ったものから、縄文時代の食生活や^{なりわい}生業、文化についての興味深い事実がわかってきました。本展示では、普段は残りにくい出土品の中でも神奈川県内で発見された資料を中心に、海や森の自然と深い関わりをもっていた縄文時代の人びとの生活の一端を紹介します。

2015年12月

神奈川県教育委員会
神奈川県立歴史博物館
海老名市教育委員会

目次

プロローグ ～縄文人の生業と自然との関わり～	1	漁撈の道具と方法	11
I. 貝塚と水辺の遺跡 ー海と森の生業の痕跡を探るー	2	III. 森の恵みと生業	15
貝塚とは何か	2	狩猟の道具と方法	15
貝塚の分布	4	貝塚から見つかる獣骨	16
貝塚から見つかるもの	5	コラム 縄文の森の意匠	17
水辺の遺跡とは何か	6	縄文時代の環境と植物	18
水場の遺構から見つかるもの	6	コラム 土器に残った種子の痕跡	20
II. 海の恵みと生業	8	森の資源を利用した道具	22
貝塚から見つかる貝	8	IV. アクセサリーに見る縄文の海と森	28
貝塚から見つかる魚骨・海獣骨	10		

例言

- 本冊子は、平成27年度かながわの遺跡展・巡回展『縄文の海 縄文の森』の展示図録です。
- 本展は、神奈川県教育委員会・神奈川県立歴史博物館(遺跡展)・海老名市教育委員会(巡回展)が主催するものです。
- 遺跡展及び巡回展の展示会場と会期は、次のとおりです。
遺跡展 神奈川県立歴史博物館 特別展示室 平成27年12月19日(土)～平成28年1月30日(土) 月曜日休館(ただし1月11日は開館)
巡回展 海老名市温故館 展示室 平成28年2月5日(金)～3月6日(日) 会期中の休館はなし
- 出土品の所蔵・保管先については、県教育委員会所蔵のもののみ、略しました。また、写真の提供を受けたものについては、「所蔵・保管先(写真提供)」としています。なお、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターは、「横浜市埋蔵文化財センター」と略しています。
- 本展に関わる企画及び図録の作成は、神奈川県立歴史博物館(担当 永井 晋)、海老名市教育委員会(担当 押方みはる・今野まりこ)の協力を得て、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所(神奈川県埋蔵文化財センター)の加藤勝仁(担当)・萩谷光子・森戸一彦・竹内俊吾が行いました。
- 協力機関・協力者 (順不同・敬称略)
横浜市歴史博物館、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、川崎市市民ミュージアム、相模原市教育委員会、相模原市立博物館、横須賀市教育委員会、横須賀市自然・人文博物館、平塚市教育委員会、平塚市博物館、藤沢市郷土歴史課、茅ヶ崎市文化資料館、小田原市文化財課、神奈川県立生命の星・地球博物館、山梨県立博物館、株式会社玉川文化財研究所、株式会社盤古堂、公益財団法人かながわ考古学財団、公益財団法人神奈川県公園協会、栗浦山長立院能永寺、劔持輝久、樋泉岳二

プロローグ

～縄文人の生業と自然との関わり～

縄文時代は、全国各地で多くの貝塚がつくられるなど、人びとが積極的に海との関わりをもち始めた時代です。神奈川では、縄文時代の早い段階から貝塚の存在が認められており、早期前半の横須賀市夏島貝塚や平坂貝塚などは全国的に見ても、最も古い時期に位置づけられます。

貝塚では、多量の貝殻とともに魚骨や漁に関連した道具が見られ、当時の漁撈活動の一端をうかがうことができます。早期後半の横須賀市吉井貝塚からは、釣針のほか様々な骨や角を使った道具(骨角器)が見つかっています。

貝塚から出土した魚骨を見ると、沿岸で獲れる魚だけではなく、マグロなど外洋でしか獲れない魚なども含まれ、当時の人びとが外洋へと乗り出し漁を行っていたことがわかります。後期の横浜市南区稲荷山貝塚では、鹿角製の大きな銚が見つかり、アシカなどの海獣や大きな魚を獲るために使われたと考えられます。

また、貝塚から出土する貝の種類を調べることで、当時の環境を推定する手助けにもなります。

貝塚からは、魚骨だけではなく様々な陸上動物の骨も発見されており、縄文人の狩猟についても知ることができます。吉井貝塚や横浜市保土ヶ谷区仏向貝塚からは、今では絶滅してしまったオオヤマネコの骨も発見されました。

縄文人と森との関わりはどうか。長く続いた氷河期が終わり、気候の温暖化が進むと森の様相も大きく変化します。

関東地方の森では、クリやクルミなどの堅果類が多く実り、シカやイノシシなどが生育しやすい環境にありました。近年の研究成果によれば、人びとに多くの恵みをもたらした森は、自然のままの状態では利用されたのではなく、積極的に管理をしていたのではないかとされています。中期の相模原市南区勝坂遺跡で検出された花粉を分析した結果からは、クリを意図的に管理し、保護していた可能性が指摘されています。

水辺の遺跡では、時に植物質の様々なものが腐らずに発見されます。前期の小田原市羽根尾貝塚では貝殻や骨角器のほか、クルミなどの堅果類や木製の容器・弓・編物などの道具も見つかっています。漆を使った製品も多く発見され、縄文時代には高度な漆使用の技術があったことがわかりました。

谷底の低湿地では湧水を利用するための施設、いわゆる水場遺構が見つかっています。後期の平塚市真田・北金目遺跡群と中・後期の伊勢原市西富岡・向畑遺跡では、谷底で土坑(地面に掘った穴)や木組、礫敷遺構などが作られ、ドングリをアク抜きし食料とするための水さらし作業などが行われていた場所と考えられています。

勝坂遺跡では、種子が土器の胎土に混ぜられたものが発見されています。分析の結果、種子はツルマメとダイズであることがわかりました。縄文時代のダイズの栽培についての貴重な資料といえます。

このような発掘調査の成果から、縄文時代の人びとが、海や森に代表される自然と共生しながらたくましく生きていた姿を、垣間見ることができるのです。

I. 貝塚と水辺の遺跡 —海と森の生業の痕跡を探る—

● 貝塚とは何か

「貝塚」とは、食料として採集した貝を食べたあと、不要となった貝殻を捨てた結果、できあがったものです。

貝塚の中には、斜面に捨てられた貝殻が堆積した貝層のほかに、廃棄された竪穴住居のくぼみや土坑の中に貝殻を捨ててできた貝層などがあります。貝層を断面で観察すると、貝殻が多く含まれる層、貝殻の少ない層、炭が含まれる層など、いくつかに分けられます。これらの貝層は、古い時期のものが下位に、新しい時期のものが上位に堆積するのが原則です。各層を比較することにより、自然環境の変化や土器などの違いによる年代差を確認することができます。横須賀市吉井貝塚では、下位に縄文時代早期の貝層が、上位に中期の貝層が堆積していました。また、貝層を選別することで、魚の小骨など細かいものまで発見することが可能となり、当時の自然環境や食生活の推定などに役立てることができます。



横浜市南区稲荷山貝塚の貝層



平塚市万田貝殻坂貝塚の貝層
玉川文化財研究所（写真提供）



横須賀市吉井貝塚の貝層 横須賀市教育委員会（写真提供）



横浜市都筑区西ノ谷貝塚 住居内貝層
横浜市埋蔵文化財センター（写真提供）



横浜市神奈川区白幡浦島丘遺跡 土坑内貝層
しらはたうらしまがおか



横浜市中区元町貝塚
もとまち
横浜市埋蔵文化財センター（写真提供）



小田原市羽根尾貝塚 玉川文化財研究所（写真提供）



横浜市南区稲荷山貝塚

● 貝塚から見つかるもの

貝塚では、貝を食べて捨てられた殻のほかにも、獣や魚の骨、使えなくなった土器や石器を作る時に出た石クズなどが見つかっています。そのほか、変わったものとしては、真珠や糞石ふんせき（ウンチの化石）なども見られます。一見すると、貝塚は当時のゴミ捨て場のように見えますが、人やイヌが埋葬された状態で見つかるため、現代のわれわれが考えるような単なるゴミ捨て場ではなく、葬送等にも関わる場でもあったのでしょう。



イルカの骨 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



アカニシを入れた土器 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



黒曜石の剥片 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



真珠
横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館



糞石 横須賀市吉井貝塚 早期？
横須賀市自然・人文博物館



埋葬された人骨 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



埋葬されたイヌの骨 横浜市南区稲荷山貝塚 後期

● 水辺の遺跡とは何か

台地上の遺跡では、縄文時代の植物の繊維^{せんい}や木材・種子類などは、土の中で腐ってしまいますが、低湿地^{ていしつち}にある水辺の遺跡では常に水に浸かった状態であるため、腐らずに残っている場合があります。近年、神奈川でも水辺の遺跡が調査され、新たな知見が増えつつあります。

水辺に作られた小田原市羽根尾貝塚からは、植物質の遺物が多く発見されています。横浜市都筑区古梅谷^{こうめやと}遺跡では、縄文時代後期の湿地に丸木を渡した道の跡が発見されています。また、平塚市真田・北金目遺跡群と伊勢原市西富岡・向畑遺跡では水場の遺構が発見されています。

● 水場の遺構から見つかるもの

平塚市真田・北金目遺跡群で発見された水場遺構は、神奈川で初めて見つかったもので、縄文時代後期に使われていました。湧水^{ゆうすい}を利用し、谷の斜面に作られた土坑4基と、谷底に礫を敷いた遺構2基で構成されています。土坑には礫が詰まっており、その機能は、木の実などを水にさらすためのもの、もしくは貯蔵用に使われたものと思われます。礫敷の遺構の脇やその下部からは土坑や杭列が発見されており、水さらし場などの施設があったのでしょうか。また、通路の上には礫を敷き詰めて舗装した部分も見られます。

伊勢原市西富岡・向畑遺跡^{まいぼつだに}の埋没谷で発見された水場遺構は、縄文時代中期から後期にかけて使われていました。谷底付近の斜面に掘られた16基の土坑のほか、埋設土器や杭列・木組などで構成されており、トチノミやクルミを水にさらしてアク抜きなどをするための場所であったことがわかります。



水場遺構（土坑と木組） 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 中～後期 かながわ考古学財団提供（写真提供）



木道 横浜市都筑区古梅谷遺跡 後期
横浜市埋蔵文化財センター（写真提供）



調査状況 相模原市南区勝坂遺跡 中・後期
相模原市立博物館（写真提供）



樹木出土状況 小田原市羽根尾貝塚 前期 玉川文化財研究所（写真提供）



水場遺構（礫敷） 平塚市真田・北金目遺跡群 後期 平塚市教育委員会（写真提供）

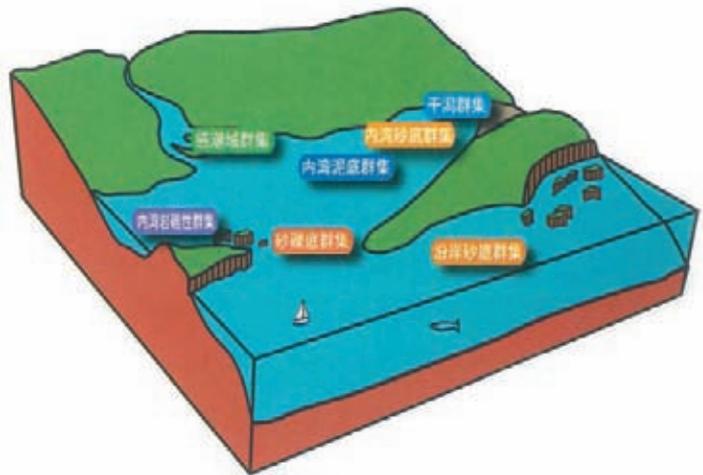
II. 海の恵みと生業

● 貝塚から見つかる貝

貝の種類は、湾の内外の沿岸部や砂質・岩礁など生息環境の違いによって異なるため、貝塚から見つかる貝の種類を調べることで、当時の人びとがどこで貝を採取していたのかがわかります。

縄文時代前期の貝塚の中でも、横浜市港北区菊名宮谷貝塚では、内湾干潟に生息するハイガイを多く採取しており、茅ヶ崎市西方貝塚では、海水と淡水が混じる場所に生息するヤマトシジミを主に採取しています。また、平塚市万田貝殻坂貝塚では、外洋に面した沿岸の砂底に生息するダンベイキサゴやチョウセンハマグリなどを主に採取しています。

横須賀市吉井貝塚の場合、早期に当たる下位の層では干潟で採れるマガキが、中期に当たる上位の層では岩礁性の巻貝を中心とした種類に変わっていきます。早期には、干潟のカキ礁で貝を採取していましたが、中期になると海退により干潟の環境に変化があって、カキが採れなくなったとも考えられます。



水域	沿岸水			内湾水					
地理的位置	湾の外側			湾口部	波食台	湾中央部		湾奥部	河口
底質	岩礁	砂泥質	砂質	砂礫質	岩礁	砂質	シルト～泥質	砂泥質	砂泥質
潮間帯						2) 干潟群集 マガキ ウネナシ トマガイ ハイガイ オキシジミ イボウミニナ		1) 感潮域群集 ヤマトシジミ カワザンショウ ヌマコダキガイ ヤマトシジミ	
上部浅海帯	10) 外海岩礁性群集 サザエ アワビ クボガイ バティラ カコボラ			5) 内湾岩礁性群集 オオヘビガイ キクザルガイ マガキ 穿孔貝類		3) 内湾砂底群集 ハマグリ カガミガイ シオフキ イボキサゴ アサリ サルボウ		7) 藻場群集 チグサガイ シマハマツボ マキミソ スズメツボ	
	9) 沿岸砂底群集 ベンケイガイ チョウセンハマグリ ダンベイキサゴ コタマガイ ワスレガイ			6) 砂礫群集 イワガキ イタボガキ ウチムラサキ イボキサゴ		4) 内湾泥底群集 ウラカガミ イヨスタレ アカガイ トリガイ シズクガイ		シマハマツボ マキミソ スズメツボ	
	11) 沿岸砂泥底群集 イタヤガイ マツヤマウスレ ヤツシロガイ ナガニシ テングニシ							8) 内湾停滞域群集 シズクガイ チヨノハナガイ ケントリガイ ヒメカノコアサリ マメウラシマ	

内湾と沿岸での貝の生息環境と貝類群集

神奈川県立生命の星・地球博物館 2004 『企画展ワークテキスト「+2℃の世界～縄文時代に見る地球温暖化～」』より



感潮域群集

ヤマトシジミ

茅ヶ崎市西方貝塚 前期 茅ヶ崎市文化資料館



内湾砂底群集 1 ツメタガイ 2 イボキサゴ

3 サルボウ 4 アサリ 5 シオフキ 6 カガミガイ

7 ハマグリ

横浜市南区稲荷山貝塚 後期



干潟群集

1 マガキ 2 ウネナシトマヤガイ 3 ハイガイ

4 オキシジミ 5 オオノガイ 6 ムラサキガイ

横浜市南区稲荷山貝塚 後期



横浜市平潟湾の干潟とカキ礁 樋泉岳二氏提供

「カキ礁」とは、カキが積み重なり島状になったもので、干潟において見られます。大量に貝塚から出土するマガキは、カキ礁から採取していたと思われる。



岩礁性の貝類

1 オオヘビガイ 2 イシダタミ 3 スガイ

4 コシダカガンガラ 5 イボニシ

横浜市南区稲荷山貝塚 後期



沿岸砂底群集

ダンバイキサゴ

平塚市万田貝殻坂貝塚 前期 平塚市教育委員会

● 貝塚から見つかる魚骨・海獣骨

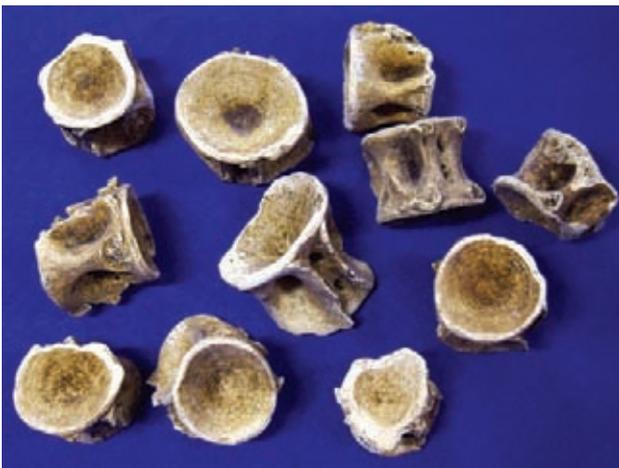
貝塚では、様々な種類の魚骨が出土します。クロダイは内湾で、マダイは外洋から沿岸にかけて獲れる魚です。カツオやマグロは外洋性の回遊魚で、舟を外洋まで繰り出し獲ったものと思われます。また、小田原市羽根尾貝塚ではイシナギという2 m級の大形魚の骨が大量に発見されています。そのほか、アシカなどの海獣骨やクジラの骨などが見つかることもあります。



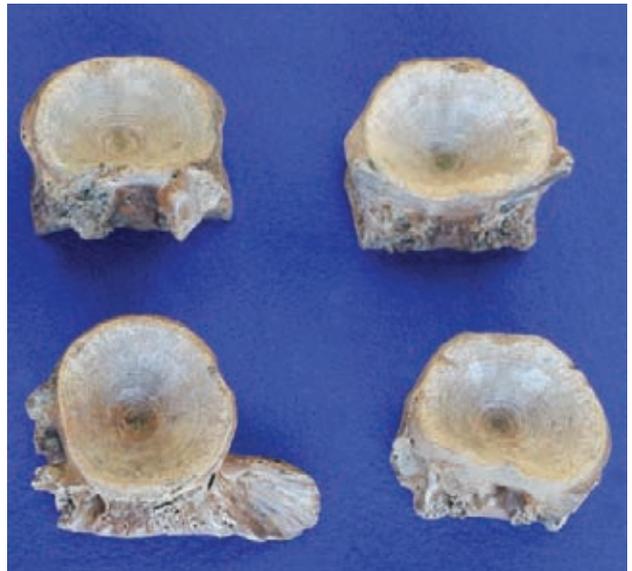
クロダイ 横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館



マダイ 横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館



マグロ 横須賀市吉井貝塚 中期
横須賀市自然・人文博物館



イシナギ 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



アシカ 横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館



クジラ 平塚市万田貝殻坂貝塚 前期
平塚市教育委員会

● 漁撈の道具と方法

縄文時代の漁撈に使われた道具の大半は、角や骨などを加工して作られています。中でも、代表的な漁撈具である釣針は、大きさも様々なものがあるため、魚の種類によって使い分けられていたのでしょう。刺突具としては、銚頭しとつぐとヤスもりがしらが代表的であり、銚頭は柄との着脱が可能なもの、ヤスは柄と一体になっているものです。横浜市南区稲荷山貝塚では、組合せ式のヤスのほか大型の銚頭も発見されており、マグロやカツオなどの大型魚や、イルカやアシカなどの海獣類を捕獲するのに使われたと考えられます。軽石製の浮子うき、石や土器片を利用した錘おもり（石錘せきすい、土器片錘どぎへんすい）は網漁に使われたもの、ハマグリふくえんの腹縁に刃をつけた貝刃は魚の鱗うろこを剥ぐための道具ともいわれています。



釣針 (左) 横須賀市平坂貝塚 早期 横須賀市自然・人文博物館
(中・右) 藤沢市西富貝塚 後期 藤沢市教育委員会



↑ 組合せ式釣針
釣針 横須賀市吉井貝塚 早期 横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



シカ角の板の中央に孔を空ける

釣針未成品 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



上下を二つに切り折る

釣針未成品 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



釣針未成品 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



釣針 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)

また、海へ乗り出すための丸木舟が出土した横須賀市伝福寺裏遺跡^{でんぶくじょうら}で見つかった大型石錘は、舟の碇^{いかり}として使用されたものと思われます。



丸木舟出土状況 横須賀市伝福寺裏遺跡 後期
横須賀市自然・人文博物館（写真提供）



釣針 中央・右 横浜市磯子区杉田貝塚 後期 盤古堂
左 横須賀市江戸坂貝塚 中期
横須賀市自然・人文博物館



釣針 茅ヶ崎市・藤沢市遠藤貝塚 後期
藤沢市教育委員会



釣針 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



ペン先形骨角器 横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



鈎頭(左) 釣針(右) 茅ヶ崎市堤貝塚 後期
茅ヶ崎市文化資料館



鈎頭 横浜市南区稻荷山貝塚 後期



鈎頭 横浜市神奈川区三ツ沢貝塚 後期
神奈川県立歴史博物館



鈎頭 横須賀市伝福寺裏遺跡 後期
横須賀市自然・人文博物館



各種刺突具 横須賀市榎戸貝塚 後期
能永寺（横須賀市指定重要文化財）



各種刺突具 横浜市磯子区杉田貝塚 後期 盤古堂



各種刺突具 横浜市南区稻荷山貝塚 後期



軽石製浮子 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会
(神奈川県指定重要文化財)



石錘(左) 土器片錘(右) 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



大型石錘(碇) 横須賀市伝福寺裏遺跡 後期
横須賀市自然・人文博物館



刺突具 横須賀市吉井貝塚 早期 横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



貝刃 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



クジラ椎骨製品 平塚市万田貝殻坂貝塚 前期
平塚市教育委員会

Ⅲ. 森の恵みと生業

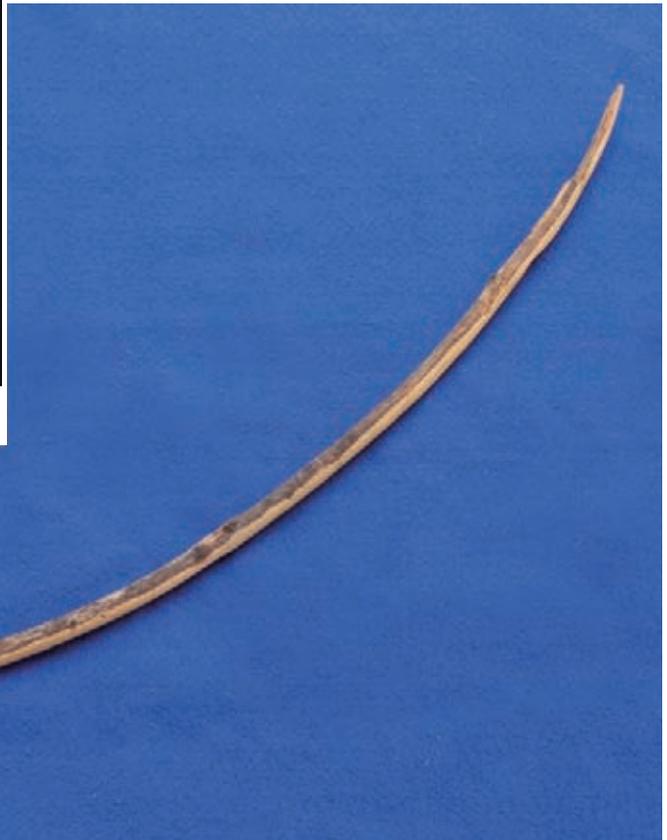
● 狩猟の道具と方法

弓矢は縄文時代になって登場した道具です。弓矢の使用により、^{やり}槍を投げるより遠くの位置から獲物を獲れるようになりました。小田原市羽根尾貝塚では、矢の先端に付ける石製の^{やじり}鏃だけでなく木製の弓も出土しており、中には^{かばま}樺巻きの立派なものも見られます。

また、縄文時代には^{おとしあな}陥穴を使った狩猟も行われました。陥穴の底には、枝を差し込んだ小穴を確認できることもあり、穴に落ちたイノシシやタヌキなどの獲物が身動きできないようにするための装置であったと思われます。



石鏃 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



丸木弓 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会（神奈川県指定重要文化財）



陥穴 相模原市南区新戸遺跡 早期



陥穴の断面 相模原市南区新戸遺跡 早期

● 貝塚から見つかる獣骨

貝塚では、縄文時代の人びとが狩りをしたイノシシ・シカ・タヌキ・ウサギなどの獣の骨が見つっています。中でも、多いのはイノシシとシカの骨です。これらの獣骨の大半は、細かく割られていることから、縄文人たちが骨髄を食べていたのではないかと考えられます。

また、現在は絶滅してしまった獣の骨も見つかることがあります。縄文時代以降の日本においては生息が確認されていないオオヤマネコのほか、オオカミやカワウソなども近年絶滅してしまったものです。

イヌは、貝塚において埋葬された状態で発見されており、縄文時代の人びとにとっても、他の獣とは区別した存在であったことがわかります。



イノシシ頭骨 横須賀市吉井貝塚 中期？
横須賀市自然・人文博物館



シカ下顎骨 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



イノシシ下顎骨 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会



ウサギ下顎骨 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



ニホンザル頭骨
小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



カイツブリ上腕骨
小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



タヌキ頭骨 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会



タヌキ下顎骨 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



◀ オオカミ上腕骨(左) 脛骨(右)
横須賀市吉井貝塚 早期 横須賀市自然・人文博物館



カワウソ下顎骨 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会



オオヤマネコ下顎骨 横浜市保土ヶ谷区仏向貝塚 後期
神奈川県立生命の星・地球博物館



イヌ頭骨 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会



◀ オオヤマネコ歯骨
横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館

***コラム 縄文の森の意匠**

発掘調査で出土するものの中には、植物の種子や動物の骨などのほかに、これらを模した土製品や土器も発見されています。

相模原市南区勝坂遺跡からはクルミをイメージした土製品が、同市中央区田名塩田遺跡群からはクルミを半分にした形の変った土器が見つかっています。また、動物を模した土製品が同市緑区原東遺跡から、ふくろうの顔を模した把手が同区大地開戸遺跡で見られます。

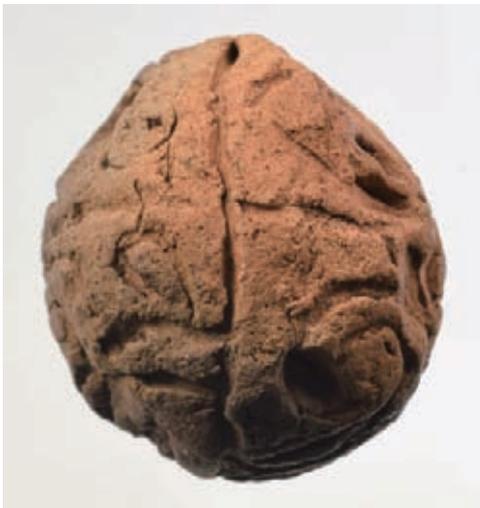
これら植物の種子や動物を象った土製品や土器からは、当時の人びとの自然に対する思いがうかがえます。



◀ 動物形土製品
相模原市緑区川尻中村遺跡
中期



◀ ふくろう形把手
相模原市緑区大地開戸遺跡
中期



◀ クルミ形土製品（垂飾？）
相模原市南区勝坂遺跡
相模原市立博物館
中期



クルミ形土器 相模原市中央区田名塩田遺跡群 中期
相模原市立博物館（写真提供）

● 縄文時代の環境と植物

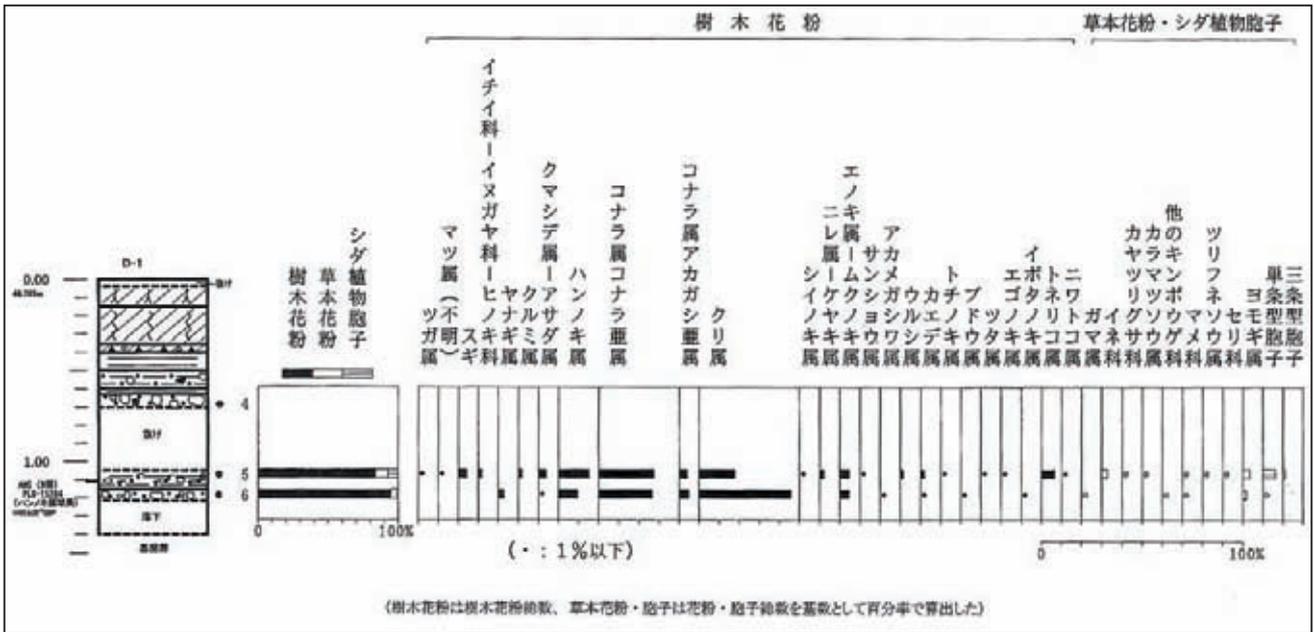
水辺の遺跡からは、トチノミやクルミなど縄文人の利用した植物がそのままの状態で見つかりますが、台地上の遺跡でも炭化したことにより植物が残っている場合があります。

平塚市上ノ入^{かみのいり}遺跡では、縄文時代中期後半の火災で焼失した竪穴住居から炭化した球根が発見されています。これは、ヒガンバナ科に属するキツネノカミソリの球根で、食用とするためには水にさらして毒を抜く必要があります。

そのほか、ドングリなどの直接的な資料以外にも、土器の裏底に残る（土器を作る際に敷いた）木の葉の圧痕や、土中に含まれる花粉の分析などからも、当時の植生がうかがえます。

氷河期であった旧石器時代が終わり、温暖化の進んだ縄文時代になると、動物の種類とともに植物の様相も変化します。縄文時代の人びとは、このような環境の変化に適応するだけでなく、積極的に自分の周りの環境にも働きかけを行っていたことがわかってきました。

相模原市南区勝坂遺跡では、縄文時代中期中葉の土層中に含まれる花粉の45%以上がクリで占められていることから、集落の周辺においてクリの管理栽培的な作業を行っていた可能性が指摘されています。また、後期ではトチノキの花粉も一時的に増加していることが確認され、やはりトチノミを採集するための栽培が行われていたのかもしれませんが。



相模原市南区勝坂遺跡中期中葉の花粉分析 相模原市教育委員会 2015『勝坂遺跡有鹿谷地点』より



クルミ出土状況 小田原市羽根尾貝塚 前期
玉川文化財研究所 (写真提供)



木葉痕 (カシワ?) のある土器
相模原市緑区橋本遺跡 中期
相模原市立博物館



編籠に入っていたミズキ 小田原市羽根尾貝塚 前期
玉川文化財研究所 (写真提供)



キツネノカミソリの球根
平塚市上ノ入遺跡 中期
平塚市博物館 (写真提供)

***コラム 土器に残った種子の痕跡**

近年、縄文土器の胎土（粘土）に植物の種子を混ぜている事例が各地で報告されています。これらは土器を作る時に、偶然に混入したとは考えにくく、意図的に混ぜたものと考えられますが、その理由についてはよくわかっていません。

相模原市南区勝坂遺跡から出土した縄文時代中期後葉の土器（深鉢）には、外面から内面まで、約70箇所
に及ぶ種子の圧痕が残っていることがわかりました。分析の結果、これらの7割以上がツルマメ、またはツルマメに類似する豆と同定されました。日本列島では、野生のツルマメから栽培型のダイズが出現したともいわれています。

また、勝坂遺跡からは、このほかにダイズと判断される種子の圧痕をもつ土器も確認されています。

その他、植物の実もしくは種子の圧痕と思われる多数の小穴をもつ土器が、前期の小田原市羽根尾貝塚で発見されており、相模原市緑区大地開戸遺跡ではドングリの圧痕をもつ土器が、同区橋本遺跡からはムクノキの種子と推定される圧痕をもつ土器の出土が認められており、今後注意して見れば、さらに類例は増えてくるものと思われます。



種子（ツルマメ等）の圧痕をもつ土器
相模原市南区勝坂遺跡 中期
相模原市立博物館



種子（ツルマメ等）の圧痕をもつ土器の外面拡大
相模原市南区勝坂遺跡 中期 相模原市立博物館



多数の小穴（圧痕？）をもつ土器
小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会



種子（ツルマメ等）の圧痕をもつ土器の内面拡大
相模原市南区勝坂遺跡 中期 相模原市立博物館



種子（ダイズ）の圧痕をもつ土器 相模原市南区勝坂遺跡 中期
相模原市立博物館



種子（ムクノキ？）の圧痕をもつ土器 相模原市緑区橋本遺跡 中期
相模原市立博物館

ドングリの圧痕をもつ土器 相模原市緑区大地開戸遺跡 中期
外皮を取ったドングリの圧痕と思われます。

● 森の資源を利用した道具

水辺の遺跡からは、様々な木製の道具類が発見されています。

小田原市羽根尾貝塚では、縄文時代前期の弓や、掘り棒、尖り棒、舟を漕ぐための櫂などが発見されています。木製の道具と樹種の間接関係を見ると、弓の素材としてはイヌガヤを、漆塗の容器の素材にはケンポナシ属を用いるなど、樹種による使い分けのあったことがうかがえます。

また、伊勢原市西富岡・向畑遺跡からは、縄文時代中期・後期の木製容器やその未成品、匙の未成品、石斧を装着する柄やその未成品などが出土しています。



◀ 權巻き弓ほか
小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



◀ 石斧柄
伊勢原市西富岡・向畑遺跡 後期
かながわ考古学財団



尖り棒 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



木製容器 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 中期
かながわ考古学財団 (写真提供)



◀ 櫂
小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



◀ 木製容器未成品
伊勢原市西富岡・向畑遺跡
後期 かながわ考古学財団



木製容器未成品（上：内面、下：外面）
伊勢原市西富岡・向畑遺跡 後期
かながわ考古学財団



石斧柄未成品 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 後期
かながわ考古学財団



(参考) 柄に装着した石斧
パプアニューギニア民俗例 個人



石斧 横浜市南区稲荷山貝塚 後期
◀

▶ 匙未成品

伊勢原市西富岡・向畑遺跡 後期
かながわ考古学財団



漆の塗られた道具、漆を使うための道具

漆を使った(漆塗の)製品は、水辺の遺跡で見つかる珍しいものです。

小田原市羽根尾貝塚では、縄文時代前期の木製容器に漆を塗った「木胎漆器」、漆塗の樺巻き弓・^{たてぐし} 豎櫛などの木製品のほか、漆塗の土器(浅鉢)などが発見されています。

羽根尾貝塚出土の木胎漆器の鉢や漆塗土器以外にも、^{おだわらじょうに} 小田原城二の丸住吉堀の調査で出土した木胎漆器や、伊勢原市西富岡・向畑遺跡出土の漆塗土器(鉢?)にも見られるように、表面を赤と黒の漆で塗り分けることで、装飾効果を高めています。

また、漆塗の製品を作るには、漆を加工・精製する技術とともに、ウルシノキの計画的な栽培管理が必要です。相模原市緑区大地開戸遺跡からは、縄文時代中期の土器の底部を再利用した漆を調整するための容器が出土しているほか、平塚市真田・北金目遺跡群でも土器を再利用した漆を調整するための容器と思われるものや漆による補修痕をもつ土器が見られ、漆を使った作業が行われていたことがわかります。



漆塗容器(木胎漆器)
小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



漆塗容器(木胎漆器) 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会
(神奈川県指定重要文化財)



漆塗容器(木胎漆器) 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会
(神奈川県指定重要文化財)



漆塗容器(木胎漆器) 小田原城二の丸住吉堀 中期
小田原市教育委員会



漆塗容器(木胎漆器)
川崎市多摩区宿河原縄文時代低地遺跡 後期
川崎市市民ミュージアム(写真提供)
(川崎市重要歴史記念物)



◀ 漆塗土器
 小田原市羽根尾貝塚 前期
 小田原市教育委員会（写真提供）
 （神奈川県指定重要文化財）



漆による補修の痕のある土器
 平塚市真田・北金目遺跡群
 後期 平塚市教育委員会



◀ 漆塗土器
 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 中期
 かながわ考古学財団（写真提供）



漆を調整した容器 相模原市緑区大地開戸遺跡 中期



◀ 漆を調整した容器？
 平塚市真田・北金目遺跡群
 平塚市教育委員会
 後期

編物・縄

水辺の遺跡からは、籠^{かご}や網代^{あじろ}などの編物のほか、縄など植物繊維を利用した製品も見つかっています。

縄文時代前期小田原市羽根尾貝塚では、編籠^{あみかご}が3点発見されており、このうちの一つにはミズキの実が入っていました。そのほか、植物繊維^よを撚った縄や、現代の民俗資料である漁撈具の「セキヤマ」に似た製品が発見されています。これは、繊維の束を芯^{ひも}にして、縄を密接して巻き付け、環状にしたものです。イシナギなどの大型魚やサメなどを捕獲するために使用する釣糸^{もり}や銚^{つな}を繋ぐ索縄^{さくなわ}など、強い力のかかる紐縄^{ひもなわ}の結束部に使われたものと考えられます。

伊勢原市西富岡・向畑遺跡では、縄文時代中期の水場遺構に作られた土坑から籠や網代が発見されています。また、川崎市多摩区宿河原縄文時代低地遺跡^{しゆくがわら}では、縄文時代後期前半の編籠などが発見されており、中でも小形のポシェット状の編籠は、現在のわれわれの目から見ても「優品」といえるものです。



編籠 川崎市多摩区宿河原縄文時代低地遺跡
後期 川崎市市民ミュージアム（写真提供）（川崎市重要歴史記念物）



編籠（左：全体、右：部分拡大） 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 中期



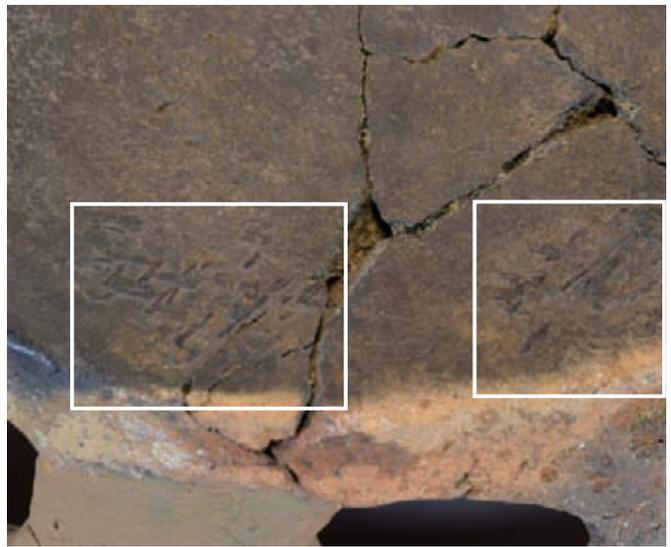
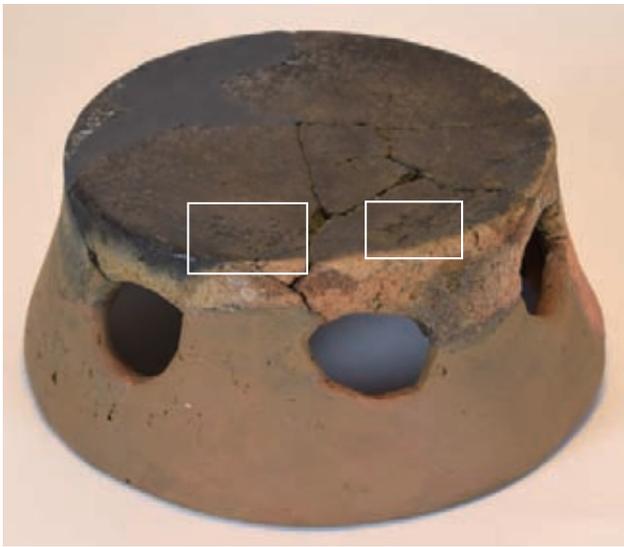
網代（左：全体、右：部分拡大） 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 中期



編籠出土状況 小田原市羽根尾貝塚 前期
玉川文化財研究所（写真提供）



編籠出土状況 小田原市羽根尾貝塚 前期
玉川文化財研究所（写真提供）



網代が焼きついた器台（左：全体、右：部分拡大） 相模原市緑区橋本遺跡 中期 相模原市立博物館



縄 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会
（神奈川県指定重要文化財）



漁撈具（セキヤマ） 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会
（神奈川県指定重要文化財）

IV. アクセサリーに見る縄文の海と森

貝塚や水辺の遺跡で発見される、骨や角で作った製品(骨角製品)や漆塗の製品の中には、装身具なども見られます。

髪を飾る漆塗の豎櫛は、縄文時代前期の小田原市羽根尾貝塚や、後期の川崎市多摩区宿河原縄文時代低地遺跡、平塚市真田・北金目遺跡群などから発見されています。骨角製の^{かみばり}髪針についても、各時期に様々な趣向を凝らしたものがあります。早期の横須賀市吉井貝塚からは、特徴的な形の角で作られた^{かみかざり}髪飾または^{たれかざり}垂飾と思われる製品が見つかっています。

^{みみかざり}耳飾は、前期の平塚市万田貝殻坂貝塚でイルカの^{きょうついでつ}胸椎骨を使った製品が、伊勢原市西富岡・向畑遺跡では漆塗の木製耳飾が見られます。ペンダントとしての使用が考えられる垂飾は、神奈川各地の貝塚で出土しており、イノシシ・サメなど様々な動物の歯牙や骨で作られたものがあります。そのほか横須賀市吉井貝塚からはツノガイ等を使った小玉(ビーズ類)も発見されています。



漆塗豎櫛 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会
(神奈川県指定重要文化財)



髪針 小田原市羽根尾貝塚 前期 小田原市教育委員会
(神奈川県指定重要文化財)



骨製耳飾 平塚市万田貝殻坂貝塚 前期
平塚市教育委員会



漆塗耳飾 伊勢原市西富岡・向畑遺跡 後期
かながわ考古学財団(写真提供)



貝輪 横浜市南区稲荷山貝塚 後期



東北地方との関連が考えられる装身具
横浜市磯子区杉田貝塚 晩期? 盤古堂



垂飾類 小田原市羽根尾貝塚 前期
小田原市教育委員会 (神奈川県指定重要文化財)



装身具「万田貝殻坂型ヘラ状角器」
平塚市万田貝殻坂貝塚 前期
平塚市教育委員会

装身具「尖頭槌形角器」
横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



イノシシ牙製垂飾
横須賀市江戸坂貝塚 後期
横須賀市自然・人文博物館



獣骨(指骨)製垂飾
茅ヶ崎市・藤沢市遠藤貝塚 後期
藤沢市教育委員会



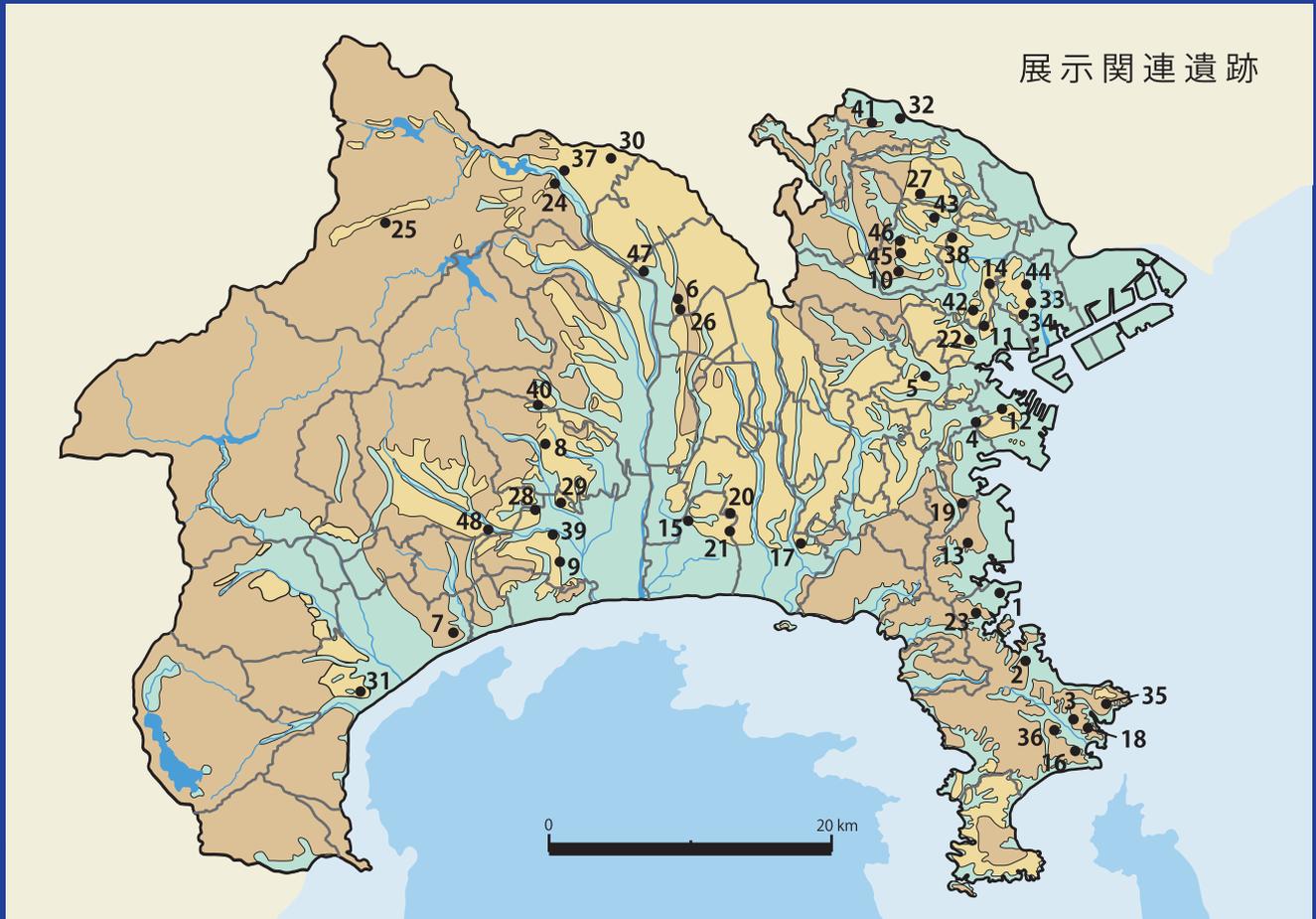
サメ歯製垂飾
横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



小玉素材(ツノガイ)横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館
(神奈川県指定重要文化財)



ツノガイ製小玉 横須賀市吉井貝塚 早期
横須賀市自然・人文博物館 (神奈川県指定重要文化財)



1 夏島貝塚 2 平坂貝塚 3 吉井貝塚 4 稲荷山貝塚 5 仏向貝塚 6 勝坂遺跡 7 羽根尾貝塚 8 西富岡・向畑遺跡 9 万田貝殻坂貝塚 10 西ノ谷貝塚 11 白幡浦島丘遺跡 12 元町貝塚 13 称名寺貝塚 14 菊名宮谷貝塚 15 西方貝塚 16 伝福寺裏遺跡 17 西富貝塚 18 江戸坂貝塚 19 杉田貝塚 20 遠藤貝塚 21 堤貝塚 22 三ツ沢貝塚 23 榎戸貝塚 24 原東遺跡 25 大地開戸遺跡 26 新戸遺跡 27 古梅谷遺跡 28 真田・北金目遺跡群 29 上ノ入遺跡 30 橋本遺跡 31 小田原城二の丸住吉塚 32 宿河原縄文時代低地遺跡 33 荒立貝塚 34 風早台貝塚 35 鴨居小学校内貝塚 36 茅山貝塚 37 川尻中村遺跡 38 北川遺跡 39 五領ヶ台貝塚 40 下北原遺跡 41 下原遺跡 42 篠原大原遺跡 43 南堀貝塚 44 小仙塚貝塚 45 小丸遺跡 46 華蔵台遺跡 47 田名塩田遺跡群 48 中里遺跡

平成 27 年度かながわの遺跡展・巡回展

縄文の海 縄文の森

発行日 2015 年 12 月 19 日

編集 神奈川県教育委員会教育局生涯学習部

文化遺産課中村町駐在事務所（神奈川県埋蔵文化財センター）

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL 045-252-8661

発行 神奈川県教育委員会

印刷 株式会社 旭クリエイト